
Romantic Orgel

麻生柚葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Romantic Orgel

【ZPDF】

Z5800M

【作者名】

麻生柚葉

【あらすじ】

“モノ”が“終わる”時はいつなのだろうか。奏でる「」とが出来なくなつたオルゴールの思う“終わり”と持ち主が思う“終わり”的お話

僕は今日も歌を歌うよ。

ラララ

僕が歌えば貴女は笑顔になるから

それだけ僕の心は温かくなつたんだよ。

ねえ、知つていましたか？

僕は貴女の為に歌を歌うよ。

ルルル

貴女の為だけに、思いを込めて歌を歌おう。

それだけが僕に出来ることだった。

ねえ、気付いていましたか？

貴女の愛した人が好きだと言つた歌を

あの人との変わりに僕が歌つから

どうか、泣かないで愛しい人

貴女は強い人だから

ずっとずっと悲しみを隠して、心の中で泣いていましたね。

“泣いても良いんだよ”と言えなかつた

悲しみをそつと包むような優しい歌を僕は歌えなかつた。

無神経に明るく前向きな歌を何度も何度も歌いましたね。

そのうちに貴女は泣かないままに、無理やり俯いた顔を前に戻した。

“無理はしないで” “ゆっくりでも良いよ”

気遣う歌など僕は知らない

だから、

沢山の思いを乗せて歌います。

この明るい歌に、優しさも切なさも労わりも込めて

ねえ、僕の“想い”は伝わっていますか？

僕は大好きな歌を歌うよ。

本当は気付きたくなかつたんだ
もう、僕は何も出来ないんだつて事

貴女の為に歌つていたかつた。

貴女にすつとすつと必要とされたかつた。

あの人変わりでも良いから貴女の傍に居たかつた。

壊れたオルゴールの涙

ああ、本当はもう一度と僕は歌えないんだね

歌えない僕が願うことは許されないのでしょうか？

今日も愛しいあの人は帰つてきませんでした。

いつまで私を待たせるつもりなのかしら。

ノックもしないで勝手に扉を開いて向日葵の様な明るい、だけど少しガサツな笑顔をしながら帰つて来るのを待つてているの。

“もうちょっと早く帰つて来なさいよ。” “悪いな”
なんて、そんなやり取りをして拗ねた私を優しく抱きしめて欲しい。

本当は分つてているの。

あの人があー一度と帰つてこない事は。

私一人を置いて逝つてしまつた事は

だけどね、あの人のことだから今にもあの笑顔で帰つて来てくれそ
うなんだもの

悪い冗談だつた様な気がしてならないんだもの
現実を受け入れることなんて・・・出来ないの

悲しいわ。

でも、涙が出ないのはその所為なのかしらね。
苦しいわ。

でも、少しましなのはあの人があれたオルゴールがあるからかしら。
寂しいわ。

でも、あの人の大好きな曲を聞いてると少し紛れる気がするの。

悲しくて悲しくて

あの人との思い出話を沢山しましたね。

苦しくて苦しくて

明るい曲の貴方にハツ当たりした事もありましたね。

寂しくて寂しくて

時には何度も何度もぜんまいを巻いて無理をさせましたね。

音のならないオルゴールを前に私は涙を流しました。
無茶をさせすぎたのかしら。

それはもうボロボロで、あの人から貰った時のオルゴールとは別物
のようだったの。

だけどそれを醜いとは、汚いとは思わないわ

貴方はいつも明るい歌で私を励ましてくれたもの。

私の為だけに何度も歌つてくれた証拠なのだものね。

貴方をあの人と重ねていたわけではないけれど

眠りにつく貴方を見て、しつかりけじめをつけないといけないと思
つたの。

あの人ももう一度と帰つてこないと。

あの人ときちんとお別れをしなくてはいけないと。

貴方のおかげでようやくあの人にお別れの言葉を言える気がします。
自分の気持ちに嘘について前を見る日々は止めようと思います。

さよなら、さよなら愛しいあの人
ありがとう、おやすみなさい私の可愛いオルゴール
新しい一步を踏み出させてくれた貴方に感謝を

後日、あの人のお墓に音のならないオルゴールをそっと置きました。
ふわりと風に乗せてあの人気が笑った気がするの
“ようやく来てくれたんだな。俺の事ばかり考えてないで幸せになれよ。”

きっと、器の広いあの人のことだからなんでも無かつたかのように私の幸せだけを願うんでしょうね。
どうか見守っていてください。

しっかりと前を向いて生きていけるように
貴方が願ったように、私が幸せになれるように。

泣いて、喚いて、叫んでも

声は貴女に届かなくて
想いは貴女に届かなくて

置いていかないでください。

僕はまだ、"終わり"ではないのに
貴女は泣いて、僕に別れを告げる

泣いて、喚いて、叫んでも

空気を震わせる事は出来ずに、音の一つも出せないで

ただただ、無情に

貴女の遠ざかる足音だけが静かな墓地に響いて

どうか、ひとりにしないでください。

願うばかりで、何て僕は無力なのだろう

僕が違う“モノ”なら、違った結末を迎えることが出来ましたか？
貴女にこの想いを伝えることが出来る“モノ”だったら、何かが変わっていましたか？

誰にも気付かれずに一人朽ちていくこの身が、悲しくて仕方がなかつた。
苦しくて仕方がなかつた。

だけれど、きっとこの身でなければ貴女に出来ることすらなかつた
のでしよう
きっとこんな感情を持つこともなかつたのでしょうか。

それは、僕にとっての幸せなのか不幸なのか分りません。
でも、少しでも貴女の為になれたのなら、生まれてきた意味はあつた気がします。

オルゴールに生まれてきた事を幸せだったと思えるようここにで一人朽ちていこう

Long Long Goodbye

さよなら、最後まで僕を見てくれなかつた愛しい人

次に生まれる事があるのなら最後まで愛されたいと願う

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5800m/>

Romantic Orgel

2010年10月28日08時23分発行